



第76回 国際ペン東京大会2010

主催:国際ペン、社団法人 日本ペンクラブ
共催:早稲田大学



広河隆一写真展

人間の戦場43年

企画:日本ペンクラブ平和委員会

9月23日(木)―9月26日(日) (無休)

10:00―18:00

早稲田大学 小野梓記念館ホワイエ

東京メトロ東西線早稲田駅下車徒歩5分/都営バス早大正門バス停下車1分(高田馬場発)

入場無料

概要

広河隆一写真展「人間の戦場43年」では、戦争状態だけでなく、世界中で「人間の尊厳が傷つき冒されている現場」の写真を展示。パレスチナやレバノン、日本を含む国々で撮影された約80点のモノクロおよびカラー写真を公開。

展示写真の一部は国際ペン東京大会の各国代表者会議場壁面を飾る予定。

『日本ペンクラブ平和委員会委員長だった立松和平さんが、国際ペン東京大会2010開催にあたり、戦争と平和のテーマの写真展をするようにと、私に強く推してくれた。彼と私は、かつてレバノンの戦場をいっしょに取材した経験がある。今年彼は思いもかけず他界されたが、彼と熱く話していた企画を「人間の戦場」と名付け、戦争状態だけでなく、世界中で「人間の尊厳が傷つき冒されている現場」の写真を展示したいと考えている。』
(広河隆一)

広河隆一 Ryuichi Hirokawa

1943年生まれ。1967年に早稲田大学卒業後、イスラエルへ渡る。直後に第3次中東戦争勃発。その後、中東問題と核問題を中心にパレスチナ、イラク、アフガニスタン、チェルノブイリなど海外取材を重ねる。IOJ国際報道写真コンテスト(本部ベルリン)の大賞・金賞をはじめ、土門拳賞など国内外の写真賞を多数受賞。ノンフィクション、写真集、小説、訳書を約45冊出版。中東、核関係のTV報道番組を多数制作のほか。記録映画「パレスチナ1948・NAKBA」も制作。2004年3月『DAYS JAPAN』を発売。編集長として現在に至る。



ガザ言葉をなくした少女



甲状腺がんのターニャはチェルノブイリで被曝し2ヵ月後に死んだ



パレスチナ検問 その女性